

## 1.2. 国内大学図書館における現状について

### 1.2.1 はじめに

国立情報学研究所(以下, NII)による「次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」(以下, CSI 事業)<sup>1</sup>は 2 年目を迎えた。オープン・アクセスや機関リポジトリ関係の記事を積極的に発信しているブログ『Open Access Japan』の 2006 年 1 月 16 日付記事によると、「現在, 国立情報学研究所の CSI 事業(最先端学術情報基盤)のもと, 複数の大学が機関リポジトリの構築を行っており, 近い将来日本には 60 以上の機関リポジトリが運営されることとなります。」と記されている<sup>2</sup>。CSI 事業という追い風を受けた国内大学の機関リポジトリの現状について, 国立大学図書館協会学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクト(以下, 本プロジェクト)で行ったアンケート調査や NII による『次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業中間まとめ』(以下, 『CSI 事業中間まとめ』)<sup>3</sup>などを参照しながら, 見ていくこととする。

### 1.2.2. CSI 事業と機関リポジトリの現状

NII の CSI 事業は, 各大学における機関リポジトリの構築・運用, 学術コンテンツの整備・拡充の支援を行うものであるが, 平成 16 年度の機関リポジトリ・プロジェクトの成果を得て, 平成 17 年度に 19 大学に対する事業委託(当時の名称は「最先端学術情報基盤構築事業」としてスタートした。平成 18 年度からは事業を拡大し, 日本国内の国公立大学からの公募とし, 2 年間の事業として, 領域 1「機関リポジトリの構築」(大学からの情報発信力を強化し, 大学における教育研究活動の可視性を高めることによって, 大学の社会的説明責任を果たすことを目的とする)で 57 大学, 領域 2「機関リポジトリ運用に関する先端的研究開発」(機関リポジトリの構築・運用に係る技術的あるいは制度的諸問題に実証的に取り組み, 問題解決のため具体的成果を得ることを目的とする)で 22 プロジェクト(共同プロジェクトを含め, 延べ 37 大学)が選定され, 事業委託が行われた。平成 19 年度は若干の追加募集を行っている。必ずしも各大学で満足する委託経費が得られたわけではないが, CSI 事業が呼び水となって, いくつもの機関リポジトリが立ち上がり, 現在, 41 の機関リポジトリが CSI 事業のサイトで紹介されている<sup>4</sup>。しかし, 機関リポジトリを立ち上げたものの, 正式運用となっている大学ばかりではなく, この 41 大学の中でも試験公開中とするものは 14 と 3 割以上を占める。

先の『Open Access Japan』の 2006 年 1 月 16 日付記事の補足では, 2007 年 4 月 20 日現在, 全学および学部単位で機関リポジトリ用ソフトウェアを利用したサーバをたてている機関として, 59 機関がリストアップされている。ROAR(Registry of Open Access Repositories, <http://roar.eprints.org/index.php>)によれば, 日本の機関リポジトリの登録数は 32 で, アメリカ(215), イギリス(98), ドイツ(77), フランス(37)に次いで第 5 位であるが, これらがすべて登録された場合はフランスを大きく上回ることになる<sup>5</sup>。

本プロジェクトのアンケート調査(対象数 92, 回答率 100%)では国立大学に限定されるが, 運用を開始している大学が 33(「すでに運用している」が 20, 「試験運用を行っている」が 13), 「設立の具体的な計画がある」が 33, 「設立の計画を策定中」が 10, となっており, 80%以上が機関リポジトリに取り組んでいるが, 「設立の予定はない」という回答も 14 あり, 事業としての優先度が高い大学ばかりではないようである。これは CSI 事業受託の有無も大きく影響していると考えられる。

### 1.2.3. 機関リポジトリ・システムの構築

機関リポジトリの重要なポイントであるシステム(ソフトウェア)については, 『CSI 事業中間まとめ』によると, 58 大学中 38 大学が DSpace を選択している。オープンソース・ソフトウェアとして, 世界的にユーザーが多く, 日本国内ではサーバと一体となったパッケージ商品の提供, ソフトハウスのサポートサービスなどがあるためか, 導入大学が圧倒的に多い。反面, DSpace 同様世界的にユーザーが多いにもかかわらず, 日本国内でのサポート体制が整っていない ePrints は 1 大学しかない。サポート体制の違いが大きな差として現れていると考えられる。3 大学で導入されている XooNlps は, 理化学研究所脳科学総合研究センターのニューロインフォマティクス技術開発チームと慶應義塾大学との共同プロジェクト(領域 2

「XooNips Library モジュールの開発」)により、Library モジュールが開発され<sup>6</sup>、日本独自のオープンソース・ソフトウェアとして注目されることである。また、図書館システムのオプション機能としても提供されている NALIS-R(8)、E-repository(3)、Infolib-DBR(2)、iLisSurf e-Lib(2)などの商用ソフトウェアを導入している大学も多い(それぞれの( )内は導入大学数)。導入段階での省力化、ソフトハウスやシステム・ベンダーによるサポート体制の充実等が、大きな導入理由と考えられる。なお、E-repository については、広島大学・大阪大学・千葉大学・島根大学・香川大学との間でユーザー会が設立されている。

本プロジェクトのアンケート調査では、ソフトウェアについての設問はないが、OAI プロバイダリストへの登録についての設問があり、この回答では、運用開始している 33 大学のうち、18 大学(「すでに運用している」が 15、「試験運用を行っている」が 3)が OAI プロバイダリストに登録しており、ROAR、OpenODR(<http://www.opendoar.org/>)にほとんどが登録している。OAIster(<http://www.oaister.org/>)への収録は 16 大学、Google Scholar や Scirus に収録済みの大学もある。

#### 1.2.4. コンテンツ収集・蓄積状況

コンテンツ収集においては、本プロジェクトのアンケート調査と『CSI 事業中間まとめ』の双方において取り上げられているが、雑誌論文(学術誌論文)、研究報告書、学位論文、紀要論文、学会発表資料、教材などが積極的に収集されている。

『CSI 事業中間まとめ』によれば、平成 18 年度における収集コンテンツとして、紀要論文は 98,356 件と突出している。これは機関リポジトリの構築支援として、NII が「学術雑誌公開支援事業(研究紀要公開支援事業)」による CiNii 搭載の紀要電子化データを提供していることが大きいと考えられる。次いで機関リポジトリのメイン・コンテンツと言える雑誌論文が 12,592 件、そして研究報告書が 3,355 件と続いている。また、「それ以外」に分類されるコンテンツが 77,672 件あるが、主として貴重書や静止画等の特殊コレクションということである。平成 19 年度にはサイエンス・データの搭載を予定している大学もあり、ユニークなコンテンツ収集が展開されるものと予想される。なお、平成 18 年度に作成されたフルテキスト・コンテンツ数は 212,880 件、平成 17 年度以前からのコンテンツと合わせた蓄積コンテンツ数は、281,055 件となっている(平成 19 年 2 月 20 日現在)。平成 19 年度計画では 246,943 件増加(蓄積数は 527,998 件)となる予定である。

#### 1.2.5. 学協会著作権ポリシーデータベース(SCPJ)の公開

2007 年 3 月 28 日、学協会著作権ポリシーデータベース(Society Copyright Policies in Japan, 略称 SCPJ, <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/scpj/>、以下、SCPJ)が公開された。これは、CSI 事業の領域 2「国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト」によるものであるが、その基礎となるものは、本プロジェクトの調査や各大学における調査の集積である<sup>789</sup>。

機関リポジトリの関係者にとって、学協会・学術出版社の著作権ポリシー調査は欠かせないものである。欧米においては、SHERPA/RoMEO(<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php>)が代表的なものであるが、日本で機関リポジトリの取り組みが始まった当初、日本国内の学協会における著作権ポリシーの調査は皆無であり、本プロジェクトの 1 年次(2004 年)に、国立大学図書館協会会員館を対象に実施した機関リポジトリへの取組状況や要望についての調査では、学協会との窓口を期待する声が多く寄せられた。2005 年初頭に行われた千葉大学による 39 学協会を対象とした調査(回答 24 学協会)が、小規模であったにもかかわらず、関係者の大きな関心を呼んだこともあり、本プロジェクトの 2 年次(2005 年)には、機関リポジトリの普及効果も期待して、機関リポジトリへの認知度と著作権の許諾状況について、『学会名鑑 2004～2006 年版』に掲載された 1,730 学協会に対する調査を行い(一部は東京工業大学との合同調査)、約 770 学協会から回答を得、調査結果の速報として、回答内容の公開を認めた 407 学協会分のデータを公開した。

「国内学協会等の著作権ポリシー共有・公開プロジェクト」では、筑波大学、神戸大学、千葉大学の担当により、神戸大学が調査、千葉大学が啓発・プロモーション、筑波大学がデータベースの開発・公開を

担当している。本プロジェクトや各大学の協力の下、それぞれの調査結果を集約し、SCPJ として公開するとともに、機関リポジトリ・ワークショップや SPARC/JAPAN の連続セミナー等において、本プロジェクトのアンケート調査を紹介し、学協会に対して機関リポジトリの啓蒙や協力依頼などの働きかけを続けながら、地道な調査活動を継続している。現在登録されているデータは 475 件、3 割にも満たないが、SCPJ の公開は、著作権ポリシーの確認作業を容易にし、実務上有益なものである。その期待は大きく、公開データの増加が望まれるところである。各大学における個別調査の情報を SCPJ に集約するなど、機関リポジトリ関係者の情報提供・協力が欠かせない事業である。

なお、NII が 2007 (平成 19) 年 9 月に、CiNii (NII 論文情報ナビゲータ、<http://ci.nii.ac.jp/>) で無料般公開をしている学協会誌について、各学協会に対して「著者の所属する学術機関リポジトリへの本文コンテンツ複製収録の可否」を確認し、「NII-ELS コンテンツの機関リポジトリへの提供許諾条件一覧」として公開している ([http://www.nii.ac.jp/nels\\_soc/ELS-IR-list.html](http://www.nii.ac.jp/nels_soc/ELS-IR-list.html))。

#### 1.2.6. Airway プロジェクト

Airway (Access path to Institutional Resources via link resolvers, [http://airway.lib.hokudai.ac.jp/index\\_ja.html](http://airway.lib.hokudai.ac.jp/index_ja.html)) プロジェクトは、CSI 事業の領域 2「リンク・リゾルバを通じた機関資源へのアクセス」(担当:北海道大学・筑波大学・千葉大学・名古屋大学・九州大学)によるもので、リンク・リゾルバを通じて、機関リポジトリなどに収容されたオープン・アクセス文献へのナビゲーションを実現することを目的とした研究開発プロジェクトである。機関リポジトリと日常的に使われる電子ジャーナルやデータベースをシームレスに利用可能とするため、OCLC の Openly Informatics 部門の技術的なサポートを得て、システム構築を行った。今のところ、リンク解決対象とされている機関リポジトリは 4 機関だけであるが、D-Lib Magazine (<http://www.dlib.org/dlib/march07/sugita/03sugita.html>) への論文掲載等による国内外への報知、Web によるリンク・リゾルバ開発者や機関リポジトリ運営者への情報提供などを積極的に展開しており、今後、機関リポジトリ及びその収載論文の可視性の向上が期待できる。オープン・アクセス運動の推進にも大きく寄与するものと思われる。

#### 1.2.7. デジタルリポジトリ連合

機関リポジトリの担当者間では、先行館からの情報収集や CSI 事業の研究成果報告会等による Face-to-Face の交流から、電子メールによる情報交換など、様々な交流が行われてきた。CSI 事業の領域 2「機関リポジトリコミュニティの活性化」(担当:北海道大学、千葉大学、金沢大学)では、機関リポジトリ構築をすすめる大学相互の情報交換・共有し、各大学の機関リポジトリの設置・運用に貢献しあうとともに、プロジェクト型のコンソーシアム活動を通じて、機関リポジトリ継続のための相互協力活動やゆるい連携組織のあり方を模索することを目指し、デジタルリポジトリ連合 (Digital Repository Federation, 略称 DRF=ダーフ) を組織し、様々な活動を展開している。この連携活動は CSI 事業受託大学以外にも広く呼びかけられ、その主旨に賛同する大学は 28 となっている<sup>10</sup>。平成 18 年度の活動としては、ワークショップの開催 (2 回)、Web サイト (<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php>) やメーリングリストの開設などを行い、平成 19 年度においても、国際シンポジウムや図書館総合展におけるワークショップを企画、また NII の学術ポータル担当者研修に協力するなど、全国の国公私立大学等の機関リポジトリ構築を支援している。コミュニティ形成において極めて重要な役目を担っており、CSI 事業終了後も、その貢献が期待されることである。

#### 1.2.8. 地域の共同リポジトリ

欧米やオーストラリア等でも共同リポジトリの構築が進められているが、日本においても、前述のデジタルリポジトリ連合の動きとは別に、機関リポジトリをベースとして、地域連携や地域社会への貢献を進めていこうとする取り組みが始まっている。

「ゆうキャンパス・リポジトリ」(正式名称「学術成果発信システムやまがた」、

<http://repo.lib.yamagata-u.ac.jp/>)は山形大学が設置した機関リポジトリであるが、山形県内の教育機関と山形県の連合組織として、「大学コンソーシアムやまがた(愛称「ゆうキャンパス」)」(<http://unicon.kj.yamagata-u.ac.jp/>)があることから、コンソーシアム内 9 機関の研究者のコンテンツも収集・公開対象としている。現在は試験公開中であり、公開されているコンテンツも山形大学のものだけであるが、今後の展開が期待される。

東海地区では、名古屋大学が平成 18 年度の事業計画の「2.研究支援」として、「CSI 委託事業を推進することにより、名古屋大学における学術機関リポジトリの充実を図るとともに、他の諸機関と連携してわが国の学術情報流通の改善に貢献する。また、東海地区における学術機関リポジトリの構築を支援する。」<sup>11</sup>としており、その取り組みとしては、東海地区国立大学図書館協会の枠組みの中で、地域大学間の連携を模索するとともに、各大学の事例とノウハウの提供を目的とした学術機関リポジトリ実務担当者会議を開催し、情報公開サイト(<http://info.nul.nagoya-u.ac.jp/pubwiki>)を開設している<sup>12</sup>。

「広島県大学図書館共同リポジトリ HARP(Hiroshima Associated Repository Project)」(<http://harp.cc.it-hiroshima.ac.jp/dspace/>)は、広島県大学図書館協議会を中心とした構築実験サイトで、10 大学が参加しており、「理念・ノウハウの共有、実験サーバの構築・実験コンテンツの収集」、「共同リポジトリの本稼働に向け、広島県大学図書館協議会を中心とした運営体制の検討」を行っている。テスト段階ゆえ、コンテンツは数えるほどであるが、実験から生まれる成果に期待したい。

岡山大学は、「地域の中の岡山大学学術成果リポジトリ(地域・国内向け)」として、「eprints@OUDIR」(<http://eprints.lib.okayama-u.ac.jp/>)を立ち上げ、「デジタル岡山大百科」を運用する岡山県立図書館と協力し、相互にハーベストを行っている。

九州地区では、平成 18 年 4 月 24 日開催の国立大学協会九州地区支部会議において、「九州地区国立大学間の連携の可能性に係る検討会議」が設置され、この検討会議での協議を経て、研究分野における事業企画として機関リポジトリを活用した学術誌の刊行が検討されることとなった。各大学の紀要等の掲載論文から、各大学から推薦された論文を審査のうえ編集し、年 2 回の予定で、電子媒体のみで機関リポジトリによって発信する方向で協議が進められている(詳細は 1.3.4 にて後述)。

長崎県大学図書館協議会は、「長崎県大学図書館協議会として共同で機関リポジトリを立ち上げる」及び「地方の小規模大学での機関リポジトリ構築のノウハウを学ぶ」を目的として、長崎県大学図書館協議会加盟館による「長崎関係文献、機関リポジトリの構築を計画、長崎県大学図書館協議会加盟館発行の紀要類(原則として 1975 年以降の過去 30 年分)に収録されている全分野の長崎関係論文を収録対象予定としている<sup>13</sup>。

日本の図書館界では、従来から研修事業や相互協力等で広く図書館・情報機関との連携・協力が行われてきた。機関リポジトリの構築・運用においても、同様の協力関係が進むものと予想される。

## 注・引用文献

- 1 国立情報学研究所."次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業,"  
["http://www.nii.ac.jp/irp/index.html\(参照 2007-05-09\)](http://www.nii.ac.jp/irp/index.html)
- 2 三根慎二."日本における機関リポジトリ".Open Access Japan(January 16, 2006),  
[http://www.openaccessjapan.com/archives/2006/01/post\\_87.html\(参照 2007-05-09\)](http://www.openaccessjapan.com/archives/2006/01/post_87.html)
- 3 国立情報学研究所."次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業中間まとめ",  
[http://www.nii.ac.jp/irp/info/2006/CSIH18report.pdf\(参照 2007-05-09\)](http://www.nii.ac.jp/irp/info/2006/CSIH18report.pdf)
- 4 国立情報学研究所."次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 機関リポジトリ一覧",  
[http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html\(参照 2007-05-09\)](http://www.nii.ac.jp/irp/info/list.html)
- 5 登録数は 2007 年 5 月 10 日現在のもの
- 6 慶應義塾大学."KOARA(KeiO Academic Resource Archive) について",  
[http://koara.lib.keio.ac.jp/doc/KOARA\\_About.htm\(参照 2007-05-09\)](http://koara.lib.keio.ac.jp/doc/KOARA_About.htm)

- 
- 7 国立大学図書館協会学術情報委員会デジタルコンテンツ・プロジェクト."電子図書館機能の高度化に向けて:2 学術情報デジタル化時代の大学図書館の取り組み (デジタルコンテンツ・プロジェクト第2次中間報告書)(2006年6月),  
"[http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/si/dc\\_chukan\\_hokoku\\_2.pdf](http://wwwsoc.nii.ac.jp/anul/j/projects/si/dc_chukan_hokoku_2.pdf)(参照 2007-05-10)
  - 8 千葉大学附属図書館."国内学会等刊行誌掲載論文の著作権調査について(報告)(2005年2月2日)"  
[http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/about/local\\_societies\\_research.pdf](http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/about/local_societies_research.pdf)(参照 2007-05-10)
  - 9 富田健市.日本の学協会における著作権の取扱い等について 機関リポジトリへの対応を中心として, 大学図書館研究.79, 2007.3.31,p.1-8..
  - 10 デジタルリポジトリ連合."DRF 参加機関一覧",  
<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?%E5%8F%82%E5%8A%A0%E6%A9%9F%E9%96%A2%E4%B8%80%E8%A6%A7> (参照 2007-05-09)
  - 11 名古屋大学附属図書館."平成17年度附属図書館実績報告及び平成18年度計画について", 館灯:  
名古屋大学附属図書館報.No.160, 2006.8.15, p.5-8.  
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/kanto160.pdf>(参照 2007-05-10)
  - 12 渡邊俊彦."学術機関リポジトリの現状と今後の展望", 館灯:名古屋大学附属図書館報.No.162,  
2007.2.15, p.1-5. <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/kanto162.pdf>(参照 2007-05-10)
  - 13 長崎県大学図書館協議会."「長崎関係文献」の機関リポジトリ構築", [国立情報学研究所]学術ポータル担当者研修 平成18年度 成果物(研修後レポート).  
[http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h18/files/30-2\\_nagasaki-kendai.ppt](http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/portal/h18/files/30-2_nagasaki-kendai.ppt)(参照 2007-05-10)